



き す な

第7号

〔発行〕
市民運動園田地区推進協議会
尼崎市御園1丁目23-8(園田庁舎)

〔お問合せ先〕
公益社団法人尼崎人権啓発協会
尼崎市東七松町1丁目23-1(市役所本庁内)
電話 06-6489-6815

若王寺連協について

若王寺社会福祉連絡協議会 会長 今西 誓

若王寺地区には、1955(昭和30)年頃から「親和会」という町内会が設けられていました。当時は高度成長時代で、尼崎市は阪神工業地帯の一翼を担っており、工場が市内一円に点在していましたが、当地区は農村地域で一帯に

水田が広がっていました。1965(昭和40)年頃から区画整理事業が実施され、その風景は大きく変貌し、徐々に住民が増え始め、既存の農会、お寺(檀家)、神社(氏子)ではなく、地区住民をメンバーにした町内会の存在が重視されるようになりました。

町内会では、街灯設置、消火器配置などの課題を解決するとともに、行政に対して公園や道路、信号機設置などのインフラ整備を要望してきました。

地区には、町内会以外の団体が存在しませんでしたが、他地区に合わせて社会福祉連絡協議会に改組し、その中で単組といわれる福祉協会が3カ所あり、全体でフォローしています。

若王寺連協では「見守り活動」と「防災対策」に力を注いでいます。見守り活動では、対象者が約100人おり、民生児童委員の方々と協力して見守りをしています。防災活動では、年一回の防災研修会と、防災打ち合わせ会議を随時実施しています。

今年はコロナの関係で中止になりました。入社時に学んだ言葉は、「一路まつすぐに「ぶれる」ことなく「バランス」をとり、支え合い、より良い品質と人質という合い言葉のもとに、社会に貢献することです。また、人材とすべてのことに磨きをかけ奉仕の精神をモットーに励んできました。この精神を一身に秘めて、鉄道車両の仕事で全国を駆け巡り、民間会社で培った経験を手土産に、1989(平成元年3月末日に退社するとともに、4月から社会福祉法人田能老人福祉会に入職し、今年で32年間の勤務となりました。現在も、継続は

『保護司』ってどんなことするの? ～保護司の役割を少しPR～

尼崎市保護司会 園田分会 保護司 福山 久美

保護司の願いを届けたい

会う約束をしていてもその時刻にやつて

役割はもつとあるけれど、今回はほんの一部を紹介しました!

保護司になり、初めての少年を担当した時に、「なんで保護司してるん?」「で、保護司で給料はいくらもらえるん?」と聞かれた。わたし「えつ?お給料なんてないよ。私はボランティアだよ」少年「なんでただ働きするん?」わたし「保護司になつた理由は、ひと言では言えないからお話しすね」といったやり取りをしたことがあります。

いろいろな理由で罪を犯した少年や少女たちが、再び社会の一員として各々の地域で暮らせるように、サポートの一端を担うのが私たち保護司の役割です。定期的に会つて、家族のこと仕事のことなど話をしながら、少しずつ互いのきずなを結んでゆくことが大切です。

いろいろな理由で罪を犯した少年や少女たちが、再び社会の一員として各々の地域で暮らせるように、サポートの一端を担うのが私たち保護司の役割です。定期的に会つて、家族のこと仕事のことなど話をしながら、少しずつ互いのきずなを結んでゆくことが大切です。

皆さんには「更生」という言葉をご存じだと思います。辞書を引くと「もとの良い状態にもどること」とあります。世の中に、

生まれながらの犯罪者はいないはず。これまで生きてきた中で、どこかで道を間違つてしまつたけれど、もう一度やり直したいと思う人たちがいる。そんな人たちを少しだけ手助けし、一緒に悩みながらも伴走していきたいと考えているのが、私たち保護司。

私の人生のレールは 「つながり」「どこまでも」「いついつまでも」「つなぎ」「つなぐ

社会福祉法人田能老人福祉会 春日苑 理事長 奥村 清臣



日苑】に勤務しています。

電機会社で30年近く、鉄道車両品

を製造する仕事に携わってきました。入社時に学んだ言葉は、「一路

まつすぐに「ぶれる」ことなく「バランス」をとり、支え合い、より

良い品質と人質という合い言葉のもとに、社会に貢献することです。

また、人材とすべてのことに磨き

をかけ奉仕の精神をモットーに励

んできました。この精神を一身に

秘めて、鉄道車両の仕事で全国

を駆け巡り、民間会社で培った経

験を手土産に、1989(平成元年3月末日に退社するとともに、4月から社会福祉法人田能老人福祉会に入職し、今年で32年間の勤務となりました。現在も、継続は

「力」なりの一言で元気に日々「春

來たことがない少年がいた。何度も腹立たしい思いをしたとか。けれど、そんな少年も、早朝を苦にせずきちんと起きて仕事に来るという様子を見ていると、思わず「ガンバレ!」と応援したい。ゆっくりでいいから、仕事の大切さを知り、その仲間や地域とのつながりを持つてほしいと願う。

皆さんには「更生」という言葉をご存じだと思います。辞書を引くと「もとの良い状態にもどること」とあります。世の中に、生まれながらの犯罪者はいないはず。これまで生きてきた中で、どこかで道を間違つてしまつたけれど、もう一度やり直したいと思う人たちがいる。そんな人たちを少しだけ手助けし、一緒に悩みながらも伴走していきたいと考えているのが、私たち保護司。

小中島連協と連携し活動の拡大を
町内会とは別に、地域推進委員会、自主防災会、婦人防火クラブ、小学校区の関係で、スポーツクラブが二つあります。老人会、子供

町内会、連協との運営に携われた先輩方のご尽力に感謝いたしますとともに、まだこれから改善すべき課題があり努力してゆく所存です。

福社の仕事をする前は、民間の電機会社で30年近く、鉄道車両品を製造する仕事に携わってきました。入社時に学んだ言葉は、「一路

「ありがとう」の一言をいただける

施設に

さて、春日苑の32年間の「ヒモ

解きをしますと、民間会社に在職

時の1975(昭和50)年後半よ

り、高年齢社会が押し寄せること

ました。その対策として既存の2

施設(特養)だけでなく第3番目

の特養の新設が急務となり、市内

で建設者の土地提供(無償)と建

設費の一部負担による懇請が関係

者からありました。当法人が建設用地の全無償提供と建設費の一部負担を寄付することで、1987(昭和62)年度から「田能の地」

に市内第3番目の特養の建設が決



一全校一齐人權授業

学校公開に合わせて、全校一斉の道徳授業を行っています。普段から各教科や特別活動等あらゆる機会を捉えて人権教育を行っていますが、学校公開時に人権について考える道徳授業を行うことで、保護者の方にも子どもたちが人権についてどのように学習しているのかを見ていただけます。家庭でも人権について話し合う時間を作つていただくなればと思つています。

本校は、「認め合い 支え合い 重め合い」こどもの主体的な取組を重んじ、子どもが生き生きと活動する学校」という学校教育目標のもと、「①思いやりに満ちた子 ②存分に力を發揮する子 ③のびのびと活動する子」の育成をめざして、「にこにこ」「こつこつ」「ぐんぐん」を小園っ子の合い言葉に、日々の教育活動に取り組んでいます。その中でも重要な位置づけである「人権教育」の全体目標は、「自他の人権を尊重するとともに、社会の中にある偏見や差別を正しく認識し、仲間を大切にし、差別のない明るい社会を実現しようとする意欲と行動する力を育成する」です。

今回紹介させていただいた取組は2つだけですが、これからも、日々の教育活動を通して、子どもたちの人权意識の向上に取り組んでいきます。また、学校だけでなく、家庭や地域の方々との連携を図りながら人权教育を進めていきたいと思いま

から自分の良いところを伝えても
らつたりする活動の中で、子どもた
ちは、照れながらも嬉しそうにして
おり、良い表情で活動に取り組む姿
がたくさん見られました。これから
も、このような活動を通して、子ども
たちの自尊感情の育成につなげて
いきたいと思っています。

「人権過問の取り組み」「いいところを見つけ」



「小園小学校の人権教育の取り組み」

尼崎市立小園小学校 人権教育担当

地域とともに 児童委員 小川 満津美

—
—
—

教え合い、助け合い、笑うことの大切に

2008（平成20）年に当時の町会長、民生児童委員3名で地域サポート事業を始めてから、今年度で13年目を迎えました。民生児童協力委員6名に教え合い、助け合い、笑うことを大切に

「地域で暮らし続ける、その為に必要なこと」

特定非営利活動法人 やじろべえ 理事 仲原 大輔

障がい者問題からの地域づくりに

多くの課題を解決の方向（理解）へと向けることができ、少しでも障壁を減らすことができるのではないかと感じているからです。

人は自身が「理解できないもの」を本能的に恐怖と感じ無意識下で排除しようとします。もしそれが事実であれば、「障がい」というものがその「理解できないもの」であつてはならないと思いますし、そのことが地域で暮らし続けることへの大きな障壁の一つとなることは明白です。

「福祉」とは「人がしあわせによりよく生きる」という意味だそうです。

障がい福祉の分野で活動させていた正在する私たちは、障がい者問題をどう取り扱



今回執筆頂いた皆様（敬称略）

戸ノ内社会福祉連絡協議会会長	今西 誓
若王子社会福祉連絡協議会会長	奥村 清臣
社会福祉法人田能老人福祉会	春日苑理事長
尼崎市保護司会園田分会保護司	福山 久美
人権教育担当	人権教育担当
尼崎市立小園小学校	小川満津美
民生児童委員	仲原 大輔
NPO法人やじろべえ理事	NPO法人やじろべえ理事

編集後記

編集委員長 山口 昇次

ボランティアとして入つてもらい、廿
ポートの対象は、65歳以上の一人暮ら
しの方と昼間ひとりになる方です。

「で何を話とんねん」などと非難を口にしたものです。その時は当たり前のことを言っていたと思っていたのですが、今になれば、あれは我々の傲り、彼らを見下していたのかなと反省です。今でも普通の生活の中で無意識の内に他人を見下したり自分の方が上やと傲っているのかなと思う事があります。心せねば！

戸ノ内社会福祉連絡協議会会長	今西 誓
若王子社会福祉連絡協議会会長	奥村 清臣
社会福祉法人田能老人福祉会	春日苑理事長
尼崎市保護司会園田分会保護司	福山 久美
人権教育担当	人権教育担当
尼崎市立小園小学校	小川満津美
民生児童委員	仲原 大輔
NPO法人やじろべえ理事	NPO法人やじろべえ理事